

3. 全体計画と今年度の位置づけ

本調査は、5年間で調査を予定しており、年度毎に取得データ等に差が生じないようにする必要があるので、一昨年度に調査方法等も含めた低密度植栽技術の指針策定までの工程について、5年間の全体計画を作成している。また、一般的な低密度の試験植栽におけるコンテナ苗の導入に当たって使用される苗は、樹種や地域により異なるが、例えばスギの場合は、汎用性の高い「30～60cm コンテナ苗（150cc または 300cc マルチキャビティ使用）」を用いることが多く、1,000～2,000 本/ha 程度の密度にて植栽する人が多い。そこで、このような実績や地域における汎用性、特性（社会環境・自然環境等）に配慮される5年間計画が策定された。

なお、より低コスト化を目指すため、スギ「大型 90～100cm 程度のコンテナ苗」の生産と低密度植栽（1,000～1,200 本/ha 程度）の導入の可能性についても、5年間かけて検討及び実証を行い、大型苗植栽技術の導入に伴う成果（下刈り回避によるコスト削減とシカ食害対策の軽減）及び課題（苗木代と植栽植穴施工負担によるコスト増加等）の整理を行うため、大型コンテナ苗の生産と実証事業の実施もこの5年間計画に組み込まれている。

本年度は5年間計画の3年目であり、低密度植栽の実証調査を行い、昨年度までに設定し実証調査を行った試験地の追跡調査及び下刈りを実施し、データを整理する。併せて、平成27年度に植栽した3地域の地域版低密度植栽施業指針（事例集）を作成する。また、スギの大型コンテナ苗の植栽試験地については、下刈り回避によるコスト削減とシカ食害対策の軽減を目指す。

これらの成果を整理、分析し5年間の全体計画の最終成果は、低密度植栽技術を地域に普及させるための施業指針とパンフレット原稿を作成するものとする。表3図2に5年間の全体計画を示す。

表 3 5年間の全体計画

調査項目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
全体計画の策定	i 全体計画の策定				
現状の分析と評価	ii 現状の分析と評価 (含む既往文献調査)	i 現状の分析と評価 (含む既往文献調査)			
低密度植栽技術の実証	iii 低密度植栽技術の実証の開始(①)	ii 実証箇所(①)の調査と調査結果の整理と分析 iii 低密度植栽技術の実証の開始(②)	i 実証箇所(①②)の調査と調査結果の整理と分析 ii 低密度植栽技術の実証の開始(③)	i 実証箇所(①②③)の調査と調査結果の整理と分析	i 実証箇所(①②③)の調査と調査結果の整理と分析及び評価
大型コンテナ苗の導入に向けた検討	iv 大型コンテナ苗の導入の検討と大型コンテナ苗の生産開始	iv 大型コンテナ苗の生産の試行と、生産に係る課題の整理と検討 v 大型コンテナ苗の導入による低密度植栽技術の実証の開始(④)	iii 大型コンテナ苗の生産技術の整理 iv 大型コンテナ苗の導入の実証箇所(④)の調査と調査結果の整理と分析	ii 大型コンテナ苗の導入の実証箇所(④)の調査と調査結果の整理と分析	ii 大型コンテナ苗の導入の実証箇所(④)の調査と調査結果の整理と分析及び評価
低密度植栽施業指針の検討	vi 低密度植栽施業指針(方向性)の検討	vi 調査分析結果を受け修正した低密度植栽施業指針(方向性)の検討	v 調査分析結果を受け修正した低密度植栽施業指針(方向性)の検討 vi ①の地域特性に応じた低密度植栽施業指針の検討	iii ①②の地域特性に応じた低密度植栽施業指針の検討	iii 地域特性に応じた低密度植栽技術導入のための低密度植栽施業指針の作成 vi 林業技術者向けパンフレット原稿の作成



図 2 5年間の全体計画